

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
中学校 外国語（英語）編 ① 概要

校種・学年	中学校 第2学年	教科等	外国語（英語）
単元名	「ALTに日本人の魅力を紹介しよう」		
単元の目標	<p>大単元 自分が紹介する日本人の魅力をALTに伝えるために、その人物に関する事実、考えたことや感じたこと、その理由などを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>本単元 考えたことや感じたこと、その理由などを書くために、3人の主人公の体験を読んで考えたことや感じたことなどを引用するなどしながら書くことができる。</p>		
本時のねらい	対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを書くことができる。		
本時の評価規準	<p>対話文を読み、引用しながら考えたことや感じたことを書いている。 【思考・判断・表現】＜ワークシート分析＞ 対話文を読み、引用しながら考えたことや感じたことを書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】＜観察＞ ※ただし、指導に生かす評価は行うが、記録に残す評価は行わない。</p>		

事例の概要(見どころ)

- ・ 3つの単元 (Program 5、 Program 6、 Our Project 5) を大単元として取扱い、大単元のゴールとして、タスクの設定 (単元名および目標の設定) を行っている。
- ・ 生徒とのやり取り、中間指導を効果的に行うことで、生徒の英語で「話せるようになりたい」「書けるようになりたい」という気持ちを高めている。



発行：令和4年9月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

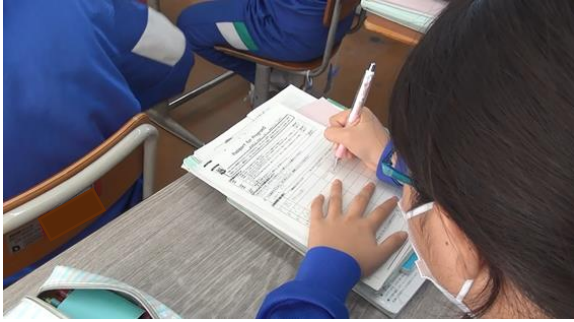


P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 中学校 外国語（英語）編 ② 展開

- 目標 対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを書くことができる。
- 準備 ワークシート、振り返りカード、ノート
- 展開 (2 / 19) 3つの単元を通して「大単元」として指導しています。

過程	○学習活動	・指導上の留意点 ◎記録に残さない評価<方法>
導入 10分	<p>1 挨拶をする。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">挨拶のやりとりから生徒の主体性を高めるとともに、本時の見通しを持たせます。</p> <p>2 「ALT に紹介する日本人」について、話すこと〔やり取り〕をし、やり取りを通してポスターに書きたいと考えた英文を振り返りカードに書く。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">活動の途中でも、生徒が「書きたい」「書けるようになりたい」と感じたことをメモできる環境（ノートの活用）を整えます。</p> <p>3 本時の目標を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことを書こう。</div> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">大単元の目標を確認するとともに、単元や本時のねらいを生徒一人一人が理解し、活動に主体的に取り組ませるためのしかけをつくります。</p>	<p>・全体で挨拶する。</p> <p>・授業の目標や流れをあらかじめ黒板に提示しておく。</p> <p>・タスクの成果物を、やり取りを通してより深い内容にさせる。</p> <p>・やり取りの全てをノートに書くのではなく、タスクの成果物に生かしたいと考えた英文のみをノートにメモさせる。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;">タブレット端末に記録することも考えられます。</div> <p>・本時の目標をしっかりと理解させ、目標に向かって授業に取り組みさせるようにする。</p>
展開 33分	<p>4 疑問詞＋不定詞の表現などを使いながら生活習慣について伝えている教師の話を、やり取りをしながら聞いたりする。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">「教師と生徒」のやり取りで適切にフィードバックを行いながら、「生徒と生徒」のやりとりへと発展させます。</p> <p>5 教師との対話を振り返り、疑問詞＋不定詞の意味、形式、使用場面を確認する。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">「教える」のではなく、「気付かせる」ことが重要です。</p> <p>6 教師との対話を参考にして、さらにペアで生活習慣についてのやり取りをする。</p> <p>7 やり取りしたことを書く。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">CAN-DO リストで「できること」を生徒に明確に伝えたうえで、そのための言語活動を行います。</div>	<p>・場面を設定し、教師が話している内容を生徒が予想できるようにする。</p> <p>・生徒とやり取りをする時に、生徒の発言に対してリキャストしながらフィードバックを行う。</p>  <p>・意味、形式、使用場面を教え込むのではなく、気づかせることで、言語習得を促進させる。</p>  <p>◎対話文を読み、引用しながら考えたことや、感じたことを書こうとしている。<観察> ◎対話文を読み、引用しながら考えたことや、感じたことを書いている。<ワークシート分析></p>



1 Let's check our goal for Program5, Program6, and Our Project5!



「Ms. Aikoが尊敬する日本人25人を決定する！」
 s. Aikoに紹介したい魅力的な日本人をポスター形式で紹介しましょう。
 最終的に、Ms. Aikoが全員のポスターを読み、尊敬する日本人25人を決定します！

○評価するポイント「書くこと」

知識・技能	A 満足できる B おおむね満足できる C 満足できない 【知識】疑問詞+不定詞、look+形容詞、二重目的構文、受け身などの特徴やきまりを理解している。 【技能】ALTに紹介する日本人に関する事実や考え、気持ちなどを疑問詞+不定詞、look(become)+形容詞、二重目的構文、受け身などを用いて伝える技能を身に付けている。	活動の様子 ワークシート 中間テスト
思考・判断・表現	A ALTに紹介する日本人の魅力を伝えるために、誰んだことについて、考えたことや感じたことをその理由とともに引用するなどしながら書いている。 B ALTに紹介する日本人の魅力を伝えるために、誰んだことについて、考えたことや感じたことを引用するなどしながら書いている。 C Bに満たない。	活動の様子 ワークシート 中間テスト
主体的態度	言語活動への態度+振り返りシート 例) 魅力をなんとか伝えようと、質問したり、言い換えたりしている。	活動の様子 振り返りシート

8 疑問詞+不定詞を使って作成された教科書本文とは別の生活習慣について書かれた対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことをペアで伝え合う。

生徒が自らの考えを表現できる活動
 (=「言語活動」)を行います。

中間指導で、「言いたい」気持ちを生徒に気付かせ、生徒が自ら「粘り強く」「自己調整」することを促します。

9 言いたかったけれど、言えなかったことを確認し、どのように表現すればよいかをクラスで考える。英文を引用するための英語表現を学ぶ。

10 再度対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。

中間指導後の言語活動により、生徒自らに「何ができるようになったか」を気付かせます。

11 ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。

本時の目標を確認しながら、「書くこと」についての言語活動を行います。

・引用しながら、考えたことや感じたことを伝えるにはどのようにしたらよいかについて教え、まずはペアでやり取りさせる。



・言いたかったけれど言えなかった表現を知っている言語材料で言いかえる方法をクラス全体で考えさせる。
 ・引用するにはどのような英語表現を使用したらよいか考えさせる。

・ペアを変えてもう一度伝え合うことで、直前に学んだことを生かす場を与える。

「言えなかった表現」を個別に、辞書やタブレット端末で調べることも効果的です。調べた内容を参考したり、写真や資料を示したりしながら伝え合うこともできます。

まとめ
7分

12 授業を振り返って目標達成のためにどのような工夫をしたかをペア、クラスで共有する。



13 振り返りを書く。

・対話文を読み、引用しながら考えたことや感じたことを書くために、どのような工夫をしたかという視点で振り返りをさせる。

言語活動を行いながら、1時間の活動内容を振り返ることができる、構造的な板書づくりを行います。

生徒が、本時の目標(ねらい、ゴール)に基づいて「振り返り」を行えるよう、時間を十分に確保します。

生徒の作品や振り返りをタブレット端末で保存することで適切な評価につながります。振り返りをネットワークで共有したりすることで、深い学びにつなげることもできます。